

第7回 「URUZO！」WG 議事録

日時：2017年11月13日 18:30～ ふれあい歯科ごとう

出席：五島先生（ふれあい歯科ごとう）、板垣先生

不二（明治）、的場（ハウス食品）、木田（マルハニチロ）、勝岡・三好（アサヒグループ食品）、藤崎（介護食食品協議会）

■URUZO！の新規テーマ案（次回2018年9月のタベマチフォーラム報告用）

①UDFの啓発普及（常食として（健常者向け）のプロモーション）

- ・豊島区ケアマネ中心勉強会でUDF認知はあるが、スマイルケア食の認知はない。
- ・UDFが一般の方に活用できるか（=美味しく食べられるどうか）を検証してはどうか。ユニバーサルデザインフードを名乗っているからこそ広く使用できる必要がある。アレンジメニューを提供することで、健常者の食事としても活用可能ではないか（あえて現在の啓発対象とは真逆の方向）。

→UDFは介護食に対するマイナスイメージを持たせないようにするために、ユニバーサルデザインフードを謳っている。もちろん一般の方についても対象に含まれるが、ターゲットはやはり高齢者となる。UDFは物性を担保した加工食品に区分をつけている。アレンジメニューとなると区分の概念がなくなってしまう（藤崎）

→UDFとしてレシピコンテストは実施したことがあるのか（板垣先生）

→UDFでレシピコンテストは実施したことないが、主に学会で発表向けのデータ収集のための試食会（官能評価会）は定期的に行っている（協議会内での共有）。今年は話題を提供する意図で初めてメディア（主に業界紙誌）も呼んだ仕立てにした。（藤崎）

- ・プロのシェフに活用したレシピを作成してもらってもいいのではないか（勝岡）

→シェフがUDFの顔となって、一般認知が向上するだろう（五島先生）

→関わりのある有名シェフ（例：陳健一 etc）にアプローチしてみる（板垣先生）

→野崎シェフ＝ハウス社で監修してもらっていて、介護食に关心はある様子（的場）

→アレンジメニューとして、和洋食、地方の味覚にあった味付け方を提案をしてはどうか（不二）

→一般の方が、介護食品棚で自分の物を買うようにならなければならないのではないか（五島）

- ・youtuberに食べてもらい、一般の方にUDFを拡散してもらうはどうか（勝岡）

→youtuberと有名シェフコラボして各地方にあったメニューを食べてもらってもいいかも（板垣先生）

②舌圧とUDF区分の関係を明らかにする

- ・UDF2と3は舌が動くかどうかで区別される（=頸が横に動くかどうか）。介護従事者に対して「食べているところを見ましょう！頸が動いていますか？？」
- ・日本の舌圧研究の第一人者（=広島大学津賀先生）である方が11/27に新食研に来る。舌圧計とクリープメーターデータ、食事状態との相関を測定してはどうか。舌圧測定は、医療保険適用になっている。対象者は、舌圧が落ちた人＝摂食能力が低下した人。

→学会などで舌圧とUDF区分との相関を聞かれことがある。（藤崎）

→津賀先生の舌圧とテクスチャーについての講演や勉強会があるとメーカーにとっても興味深い。（藤崎）

→11/27聖闘士ターンWGに津賀先生来訪予定。予定が入っていないメンバーで訪問。

■次回 第8回URUZO！

12月11日 18:30～ ふれあい歯科ごとう